

地域での取り組み

■ 避難行動要支援者避難支援の取り組みを進めよう！

誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを！

これまでの災害事例から、高齢者や障がい者等の避難行動要支援者への情報伝達や避難誘導等の支援が必ずしも十分であったとは言えず、その対策が重要な課題となっています。

誰もが安心して暮らすことができる地域づくりをめざして、災害時において自力で迅速な避難行動をとることが困難な方に対して、隣近所や地域で助け合って、速やかに避難することができるよう事前に避難支援の仕組みづくりを協力して進めましょう。

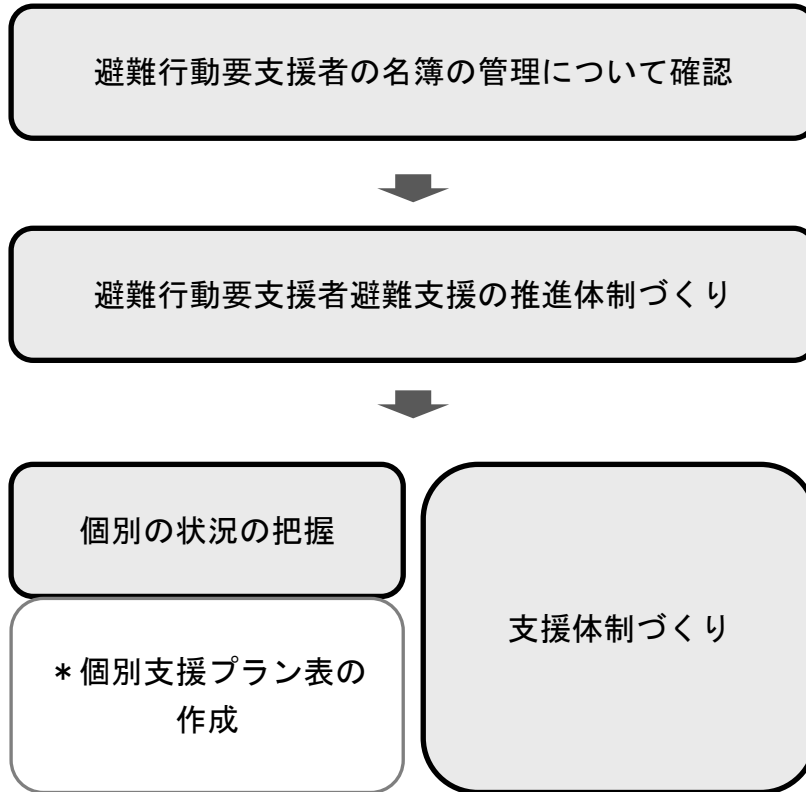
避難行動要支援者とは

要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、児童、傷病者、外国人など、特に配慮を要する者）のうち、自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者を避難行動要支援者といい、次のような状態の人々が該当します。

- * 移動が困難な人
- * 日常生活上介助が必要な人
- * 情報を入手したり、発信したりすることが困難な人
- * 急激な状況の変化に対応が困難な人
- * 薬や医療装置が常に必要な人
- * 精神的に著しく不安定な状態を来す人
- * 言語、文化、生活習慣への配慮が必要な人

〈避難行動要支援者名簿に基づいた活動の展開について〉

取り組みの進め方のイメージ

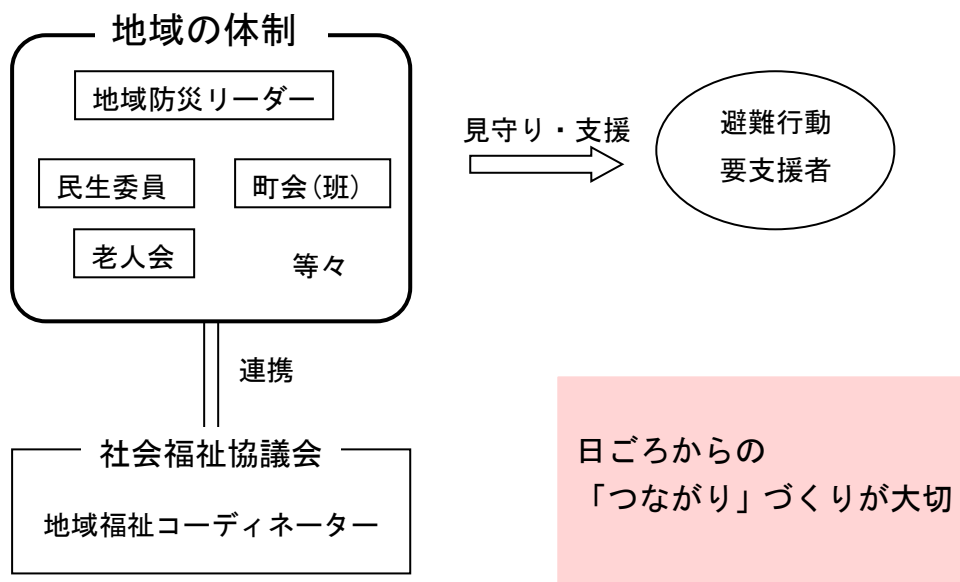


●避難行動要支援者名簿の管理について

管理責任者	
管理方法	鍵のかかる保管庫で管理
登録者数	
更新方法	<p>区へ申請してその都度更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区では月単位で更新、申請により提供 ・支援が必要な方は、福祉コーディネーターが巡回により、ある程度把握 ・70歳以上の方の名簿は連合振興町会会長及び福祉コーディネーターが所持（敬老会の参加者）

●避難行動要支援者避難支援の推進体制づくりについて

例)



● 避難行動要支援者の個別支援プランづくり

日ごろのつながりづくりを通して、地域全体で避難行動要支援者の個別支援プランづくりを進めます。また、日ごろの見守りにもつなげます。

[個別支援プラン記入例]

1人1人の状況に応じたプランを作っておくことが大切

自治 区名		民生 委員		TEL FAX	
避難行動要支援者 <高齢要介護者・一人暮らし高齢者・障がい者・その他()>					
住所		TEL FAX			
氏名		(男・女)	生年 月日		
緊急時の家族等の連絡先					
氏名		続柄()	住所		
氏名		続柄()	住所	TEL	
家族構成・同居状況等			居住建物の構造	木造二階建て、昭和〇年着工	
妻と二人の老夫婦世帯。長男・次女はいずれも結婚して県外に居住…。			普段いる部屋	木造、鉄骨造、耐火造、着工時期等	
特記事項			要介護度4で一人では歩行が困難。人工透析を受けている。聴覚障がいもあり、手話通訳が必要		
緊急通報システム (あり・なし)			肢体不自由の状況、認知症の有無、必要な支援内容等。特段の必要がなければ、プライバシーに配慮し、病名等を記入する必要はない。		
避難支援者					
氏名		続柄()	住所		
氏名		続柄()	住所		
(裏)					
避難勧告等の伝達者・問合せ先					
〇〇××さん(自治会副会長)。なお、〇〇介護センターからも伝達予定。 ※ 聴覚障がいのため、FAX・直接的な伝達が必要					
その他 担当している介護保険事業者名、連絡先等				避難所、注意事項等を記載し、利便性を高める	
避難所			避難所(集会所)		
	避難支援者宅				
	避難支援者宅		豪雨時等はマンホールに注意		
			冠水に注意		
避難所の 支援者 班:〇〇さん、△△さん、□□さん 福祉避難室:1階和室					

できる限り複数の避難支援者で協力しながら支援できるようにしましょう。

実効性が確保できれば、団体名や代表者名でもよい。

聞き取りなどを通じてコミュニケーションを図り、日ごろの見守りにもつなげましょう。

●避難行動要支援者の災害時の支援について

災害時に、避難行動要支援者への情報伝達、安否確認、避難支援に取り組む体制を検討します。

[支援体制]

避難行動要支援者	支援者	備考
〇〇町会の方	町会長、女性部長、班長、 民生委員 など 名	*個別支援プランの情報共有

避難ルートとともにマップに整理

